

シラバス

2022 年度

ビジュアルデザイン科グラフィックデザイン専攻2年

本物にふれる 本当の力をつける



履修ガイド

1. シラバス・出講表

- (1)各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (2)シラバスには次の内容が記載されている。
「授業名」「担当教員」「授業期間」「学習目標」「授業内容」
- (3)出講表には次の内容が記載されている
「授業名」「担当教員」「受講アトリエ」「修得単位」「授業内容」「授業スケジュール/計画」「指導日」「学習目標」「予習・準備物」「注意事項」「評価方法」
- (4)指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の「自主制作日」も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかり守ること。
- (5)シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。
(創形ホームページ→学生生活→スクールガイド→シラバス・出講表)
※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2. 単位

単位認定

各授業科目について基準に従って履修し合格すると、その授業科目に割り当てられている単位が与えられる。授業毎の修得単位は「出講表」に記載される。単位取得には成績および出席も含め総合的に判断される。授業科目には「学科科目」と「実技科目」からなる。(P10「4.単位制度」参照)

- (1)「学科科目」「実技科目」とともに、各授業の基準に従い、合格と認定された学生には、所定の単位を与える。
- (2)各授業科目に対する単位は以下のような算定基準に基づき授業が開設される。
1 コマ(90分)の授業が前期、または後期に週1回を基準に開設されている授業に対し1単位を基準とする。2 コマ(180分)の集中授業が3~4週間を基準に開設されている授業に対し2単位を基準とする。
※1単位:約25.5時間=1コマ17週相当
- (3)各授業の修得単位数は「出講表」に記載されている。

進級の単位数

進級するには、1年間の修得単位が32単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程を卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上(編入生は2年以上在学し、合計64単位以上)修得しなければならない。研究科は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

3. 履修

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、3回をもって1回の欠席扱いとなる。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。
- (4) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (5) 学生は出席率85%を最低水準レベルとして求められる。
- (6) 選択科目に限らず授業登録は、授業途中からの受講や、受講を途中で取りやめることはできない。
- (7) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行うことがある。

4. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に授業担当教員によって行われる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載。
- (5) 受講した科目の出席日数が3分の2以上に満たない者は、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6. 成績評価

成績は 100 点満点とし、60 点以上を合格として 5 段階で評価する。

(1) 採点は、60～100 を合格とし、それ以下を不可とする。

(2) 配点区分は下記に記す。

(3) 「実技科目」の成績評価は、定められた単位数に応じて課される課題作品・論文のすべてが対象になる。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の 2/3 以上になっていることや、学習状況等、総合的に判断される。一つの授業科目で未提出課題作品・論文があると、その科目の単位は認定できない。課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出すること。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められない。ただし担当教員が許可した場合はその限りではない。

(4) 作品、レポート等の提出物に関し、履修者以外の者が代理で作成、または他の者が作成した作品レポート等を自ら作成したとして提出した場合は不可とする。

(5) 本課程は前期、後期授業において学期末に学科・実技の履修状況の確認を学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。

※住所が変わった場合等は必ず事務窓口申し出て、手続きをする必要がある。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

GPA(Grade Point Average)成績評価制度

創形では、5段階の成績評価と GPA(Grade Point Average)制度を導入している。GPA とは 1 単位あたりの成績の平均値を示すもの。成績評価の 5 段階評価で GPA を算出、表示することで学修の到達度がより明確に示される。その目的は学生一人ひとりが自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修すること。5 段階評価や GPA 制度は外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法。留学や大学院進学等を希望する場合には必要な制度となる。

7. 休講

やむをえず休講となる場合は、授業内、ホームルーム、G-mail 等にて伝達する。補講は原則行わない。

8. 再履修・仮進級

採点の結果「不可」となった者は、次年度以降において原則としてその科目を再履修しなければならない。ただし在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1～2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。16単位以上で所定の32単位に足りず、進級判定審査において判定された場合は「仮進級」という扱いになる。

- (1) 採点の結果、点数が59点以下の場合は「不可」となり、原則として次年度以降において再履修となる。授業担当教員による採点が「保留」と評価された場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任教員の判断に委ねられ、成績会議によって判定される。
- (2) 提出日より遅れての提出や、課せられた追課題の提出等が授業担当教員、あるいは専任教員に認められた場合には総合的な判断で採点し、合格と認定された場合のみ単位習得となる。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに「受講届」を直接専任教員に提出。面談し、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーション等の関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。
- (5) 専攻を跨いで受講した授業における単位は、その授業の修得単位とする。

10. 卒業制作

3年次後期に卒業制作を提出し、その単位(16単位)を修得しないと卒業できない。卒業・修了制作は定められた日時までに必要な書類、作品を提出すること。規定日時以降の提出は無効となる。

※不慮の事故、交通機関の遅延等により定められた日時に持参して提出できない場合は、必ず期限以内に学校に電話でその旨を連絡する必要がある。

※交通機関の遅延等で提出が遅れる場合は、駅長又は交通機関の発行する遅延証明書を持参しなければならない。

11. 卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

- (1) 卒業・修了年次の11月に卒業・修了資格判定会議にて「卒業・修了資格判定」を行う。また翌年の2月に卒業・修了判定会議にて「卒業・修了判定」を行う。
- (2) 卒業・修了資格判定会議にて成績、出席等、総合的に審査し、「合格」と認定された者は、卒業・修了制作に着手できる。また「判断保留」と判定された学生についても、同様に卒業・修了制作に着手できる。審査の結果「卒業・修了不可」と判定された者は、卒業・修了制作に着手することはできない。
- (3) 卒業・修了判定会議にて単位修得状況、成績、出席、卒業・修了制作規程違反の有無等、総合的に審査され、「合格」と認定された者は、卒業、あるいは修了が認められる。「卒業・修了不可」と判定された者は、留年、退学、もしくは除籍となる。また「卒業・修了保留」と判定された者は、要件付きで3月末日、9月末日、ないしは翌年3月末日の卒業延期となる。その場合、期日までに要件を満たし、かつ卒業・修了判定で「合格」と認定される必要がある。期日までに要件が満たされない場合、1年間までは卒業延期となる。ただし、1年間を経過しても要件が満たされない、あるいは「卒業・修了不可」と判定された場合は退学、あるいは除籍となる。
- (4) 「卒業・修了保留」と判定された者のうち、特に情状が考慮された場合に限り、通常の卒業が許される。
- (5) 卒業・修了資格判定にて「判断保留」と判定された学生のうち卒業・修了判定会議にて「合格」と認定された者は、その時点で「判断保留」が解除される。

12. リモート(遠隔)授業

本校では対面授業の他にリモート(遠隔)授業を行う。リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればパソコンやタブレットでの受講を推奨する。十分な環境が整っていない学生のために学内に受講教室が用意されている。またネット環境が不安定で映像や音声乱れる等の恐れがある場合も学内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の2タイプの授業形態である。

- (1) 「リアルタイム授業」はZoomを使用してリアルタイムに行う授業である。
- (2) 「オンデマンド授業」は創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴し、受講する授業である。動画視聴は創形生のための非公開となる。パスワードは学外に漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

- (1) リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。
- (2) Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。
- (3) Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。
- (4) 配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。資料を閲覧できるのは創形生のみ、非公開となる。取り扱いには十分に注意すること。
- (5) 授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。
- (6) できるだけ静かな場所で背景に映り込むものに不都合がないか確認し、受講すること。ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。
- (7) ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。
- (8) 教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。教員の音声途切れた場合等も同様にチャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問、または再度話し直してもらうようお願いすること。
- (9) 授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (10) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。またリアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学内の受講教室にて受講すること。

リアルタイム授業の出欠・採点

- (1) 担当教員が Zoom で確認して出欠を取る。あるいは Zoom の録画機能を使用する。遅刻した場合はチャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。また途中での退席は早退扱いとなるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (2) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法にて

行われる。

- (3) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (4) 作品データを添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。以下参照。
オンラインストレージサービス <ギガファイル便> <https://gigafile.nu/>
※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

- (1) オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。
- (2) 創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。
- (3) 創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワード等を事前に通達する。
- (4) 授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことにならないので注意すること。
- (5) 授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。
- (6) 配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のみとなる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。
- (7) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。

オンデマンド授業の出欠・採点

- (1) 授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。
- (2) 授業の出欠は作品、レポート等の提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。期限内に必ず提出すること。
- (3) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (4) データでの提出は Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (5) 作品データをメールに添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合

合はオンラインストレージサービス等を使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

- (1) ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。
- (2) 許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望する場合は、事前に教員の許可が必要。

13. 提出作品・参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、速やかに返却を行う。返却された作品は速かに持ち帰ること。返却された作品が放置されていた場合に処分することがある。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンス等で使用することがある。また、学校案内用の印刷物や広報(ホームページ、SNS など)および学校外等、授業以外での目的で作品や授業風景画像を使用することがある。

14. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業・学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単位に準ずる)

※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。

- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得(単位数:1単位)

※2年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。

- (3) ボランティア活動等による単位修得(単位数:活動期間に準ずる)※単位認定は原則、実質1日8時間のボランティア活動を5日行う事で1単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。認定される。

ボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

- (4) 学外コンペに出品することによる単位修得(単位数:1単位)

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例：「日本タイポグラフィ年鑑学生部門」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」
「GU タペストリーコンペ」 etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得(単位数:各1単位)

受講料:1講座 15,000円/採点方法:提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に「学科科目」と「実技科目」が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

※新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

ビジュアルデザイン科グラフィックデザイン専攻

シラバス

2年次ビジュアルデザイン科
 ■グラフィックデザイン専攻 単位一覧

	授業科目	履修形式	単位数	
学科	色彩論	必修	1	
	フランス語Ⅱ	選択	2	
	特別講座+就職セミナー	選択	1	
	小計		1	
実技	デザイン演習ⅡA	デザインプロセス	必修	6
		タイポグラフィ基礎		
		広告デザイン基礎		
		エディトリアルデザイン基礎		
	デザイン演習ⅡB	映像ワークショップ	必修	5
		ブランドプロデュース		
		マーケティング		
	表現演習ⅡA	メディアブランディング基礎A	必修	6
		メディアブランディング基礎B		
		企画制作実習		
		描写イラストレーションA		
		描写イラストレーションB		
	表現演習ⅡB	デザインの仕事と現場	必修	7
		ブックデザイン		
		デザインとアート		
		Webコミュニケーション		
		広告デザイン		
視覚言語ⅡA	リ・デザイン	必修	7	
	アートディレクション			
	ポスターデザイン			
	就活ポートフォリオ			
視覚言語ⅡB	インターンシップ	選択	1	
	小計		31	
	合計		32	

2年次ビジュアルデザイン科

■グラフィックデザイン専攻 時間割

		9 : 20-10 : 50	11 : 00-12 : 30	13 : 30-16 : 30
月	前期	デザインプロセス 302		企画制作実習 302
	後期	実技カリキュラム 302		デザインとアート 502
火	前期	タイポグラフィ基礎 302		メディアブランディング基礎A・B 502
	後期	ブランドプロデュース 302		実技カリキュラム 302
水	前期	自主制作 302	色彩論 502	タイポグラフィ基礎 302
	後期	Webコミュニケーション 401		実技カリキュラム 302
木	前期	広告デザイン基礎 302		広告デザイン基礎 302
		エディトリアルデザイン基礎 302		エディトリアルデザイン基礎 302
	後期	自主制作 302	デザインの仕事と現場 502	実技カリキュラム 302
金	前期	企画制作実習 302		描写イラストレーションA・B 502
	後期	マーケティング 302		実技カリキュラム 302
土	前期	フランス語Ⅱ 501	自主制作 302	映像ワークショップ 502
	後期	フランス語Ⅱ 501	自主制作 302	実技カリキュラム 302

場合により、曜日や教室が変更になることがあります。

1 階外掲示板、アトリエの連絡を確認すること。

学科科目：前期学科授業名：「色彩論」 担当教員：岩崎沙織

授業期間：2022/04/13(水)– 2022/09/21(水)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：カラーコーディネートやUC（色のユニバーサルデザイン）など、実践的な色の知識・テクニック習得を目指します。配色ルールや色彩イメージを活用した作品制作を行い、色で表現する力と色を伝える力を身につけます。

授業内容：デザインにおける色の役割、色彩の基礎知識、UC（色のユニバーサルデザイン）、色彩心理、色彩調和の講義・課題制作。色の効果を活用した作品の制作・発表 ※AFT 色彩検定 3 級・UC 級対応。

学科科目：前期・後期学科授業名：「特別講座・就職セミナー」

担当教員：ゲスト教員

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。
就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

授業内容：6/11(土)海外講座 A、7/9(土)就職セミナーA、9/17(土) 2 年就職セミナー、10/15(土)同窓会講座、10/29(土) 就職セミナーB、11/19(土)海外講座 B、12/11(土)創形展講座、2/10(金)就職セミナー（就活ポートフォリオ）※日程は出講表を確認してください。

学科科目：選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 II」 担当教員：内田雅樹

授業期間：2022/04/16(土)– 2023/02/18(土)

授業時間：9：20–10：50

修得単位：2 単位

学習目標：フランス語 I の修了者を対象とします。一年次のコミュニケーション力にさらに磨きをかけながら、会話・文法の両面でより幅広い表現力と知識の習得を目指します。また、「話す」「聞く」ことがより安定するように、「読む」「書く」側面も少しずつ意識してフランス語を総合的に身につけていきます。

授業内容：前期は主に、ステップアップした一年次の延長として展開し、テキストの問題練習なども利用しながら表現の拡充と定着を図ります。後期は、観光など現地で体験する観点を切り口としながら、シチュエーション別の対応力を養います。また、個人の関心に任せたフランス旅行の機会を想定して、自ら情報を収集して簡単なしおりを制作してもらい、フランスをより身近に体験する時間を設けます。

実技科目：前期実技授業名：「デザインプロセス」 担当教員：松蔭浩之

授業期間：2022/04/11(月)– 2022/09/26(月)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：一年次のPC実習の履修度の確認と、さらなるスキルアップをはかる。デジタルカメラ撮影法とあわせ、Adobe社のイラストレータとフォトショップを駆使し、デザインワークの領域を拡大する。後半は「セルフポートレート」を使用したCDジャケット制作に取り組む。

授業内容：「写真」を使った「CDジャケット」のデザインと、DTP印刷納品までのプロセスを享受。講義とワークショップを毎回繰り返しながら、CDというフォーマットで作品を完成させる。

実技科目：前期実技授業名：「企画制作実習」 担当教員：山本哲次

授業期間：2022/04/11(月)– 2022/09/16(金)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：社会におけるデザインの役割を理解し、自分の可能性を見いだすことを目標とします。「情報」を分析し、整理整頓して「デザイン」というカタチに構築し直すことを理解すること。また制作体験を通して作品制作に自信を持ち、自主的に制作できることを目標とします。

授業内容：新しい美術館の企画を立て、そのロゴマークが入ったグッズとフライヤーを完成させます。情報収集、分析評価を行いながら企画立案、アイデア出し、制作、展開まで体験し、更に試作や検証を繰り返すことにより作品の完成度を上げることを学びます。また、授業内で現在のデザイナーの役割や制作方法などの講義を行います。

実技科目：前期実技授業名：「メディアブランディング基礎 A」 担当教員：高林直俊

授業期間：2022/04/12(火)– 2022/06/07(火)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：各メディアの特徴・特性を理解します。また実践的なクライアントワークを通して、自分のスキルや現状の立ち位置を把握します。また課題からプレゼンテーションまで、実践的にリアリティーを持って取り組みます。

授業内容：各メディアの特性や相互関係などを把握し、クライアントワークに取り掛かる前のベースを学びます。また課題からプレゼンテーションまで、実践的にリアリティーを持って取り組みます。

実技科目：前期実技授業名：「タイポグラフィ基礎」 担当教員：木村文敏

授業期間：2022/04/13(水)– 2022/09/21(水)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習目標：文字形状を見る目を養い、活字書体の知識を身に付け、組版や造形のセンスを磨きます。同時に課題を通して「読みやすさ」とは、「文字を組む」とは一体どういうことなのかを考えます。

授業内容：文字造形の基礎演習を経て、書体の歴史や変遷を学び、定番フォントの特徴や個性を探り、文字組みの基本とフォントの使い方を学習した後、オリジナルのフォントを制作します。

実技科目：前期実技授業名：「広告デザイン基礎」 担当教員：原口昌彦

授業期間：2022/04/14(木)– 2022/06/16(木)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：将来プロになるための基礎的な要素を実践形式で行う。企画、立案、設計に必要なアイデアの構築と、その仕組みをブランディング・デザインをベースに展開する。

授業内容：各テーマごとに実践形式の課題を出し問題点の抽出と改善を、制作を通して各自が発見できるワークフローを身につける。制作後プレゼンテーション・講評を実施。

実技科目：前期実技授業名：「描写イラストレーションA」 担当教員：関根秀星

授業期間：2022/04/15(金)– 2022/06/10(金)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：モノの本質的、外見的な観察力を養い、正しいプロポーションで描く。インプットからアウトプットへ、表現における一連の作業の大切さ、方法を学ぶ。講評により、自作品を客観的に見る力をつける。

授業内容：鉛筆を用いてモチーフを描く。最終課題では画面構成や見せ方も意識し、作品としての高い完成度を目指す。

実技科目：前期実技授業名：「映像ワークショップ」 担当教員：三田村光土里

授業期間：2022/04/16(土)– 2022/07/16(土)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：現代社会のクリエイティブ環境の中には、ますますアートの感性や発想を求められる機会が増えてきています。それらは目指す共通の理念がアートとデザイン共に人に「感動」を与える事を目標にしているからに他なりません。そういった時代の流れを受けて様々なアートの分野より活躍している教員からリアルタイムな現場の情報と方法論を学び、クリエイティブな発想の「入口」、「きっかけ」になる講座をめざします。

授業内容：フォト・ストーリーをつくろう。

実技科目：前期実技授業名：「メディアブランディング基礎B」 担当教員：馬谷浩樹

授業期間：2022/06/14(火)– 2022/09/20(火)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：各自でイメージしたものを実装していけることを目標にします。今後、体験したことを社会で活かせるよう興味を持つことを目標にします。

授業内容：アプリケーションの画面制作について学びます。各自で制作イメージをイメージして制作体験をします。

実技科目：前期実技授業名：「描写イラストレーションB」 担当教員：須田浩介

授業期間：2022/06/17(金)– 2022/09/16(金)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：モチーフをコラージュで作ることで画面の構成や配色を考える、モチーフをよく見る事でその物の持つ色や質感などを捉え、アクリル絵の具を混色する事や、色を重ねる事で生の絵の具やデジタルでは生み出せない色を自らの手で作り対象の持つ色の再現度を高める事を目指します。

授業内容：水張りした紙、アクリルガッシュ、筆を使用し用意したモチーフをカラーで描く、絵の具を使う時のルールを授業時に指示します。イラストレーションにおけるリアリティーと想像で描く事とモチーフを見て描く事の違いを考え学ぶ。

実技科目：前期実技授業名：「エディトリアルデザイン基礎」 担当教員：奥定泰之

授業期間：2022/06/23(木)– 2022/09/22(木)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：「読むこと／見ること」をどうデザインでコントロールするかを意識しながら、InDesignを自由に使いこなし、エディトリアル作品を制作する。また実際の制作現場に対応できるような、本の素材や構造、印刷方法なども身につける。

授業内容：InDesign というアプリケーションを使って、レイアウト、素材、構造などを意識しながら、冊子形式のエディトリアル作品を試作する。

実技科目：後期実技授業名：「ブックデザイン」 担当教員：守先 正

授業期間：2022/09/26(月)– 2022/10/14(金)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習目標：InDesign の操作を習得して、文字組みの基本を学習します。使用する紙のことまで考えて、本が1冊どのようにしてできあがるのかを学習します。

授業内容：四六判の本のカバーまわり（カバー、オビ、表紙、見返し、別丁とびら）と本文（とびら、目次、本文、略歴、奥付）のデザイン一式を実習します。

実技科目：後期実技授業名：「マーケティング」 担当教員：山本哲次

授業期間：2022/10/03(月)– 2023/02/03(金)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：お店の企画立案から広告デザインまでの制作を通して、企画・戦略・表現の関係を学習します。特にこの授業では、ビジネスにおいて最も重要視されるマーケティングを学び、表現メディアに求められる本質とその役割についてを学びます。将来、職種を広げた場合でもビジネスを生み出していく力をつける授業です。

授業内容：グループで制作する授業です。経営のかんばしくないお店を立て直す戦略を練り、企画立案・媒体計画を立て、広告デザイン案の制作を行い、プレゼンテーションまで行います。また、授業内でマーケティングやアイデアの出し方、美しい表現のポイントなどについての講義をします。企画の立て方や制作プロセスは、授業の中で説明します。

実技科目：後期実技授業名：「デザインとアート」 担当教員：松蔭浩之

授業期間：2022/10/03(月)– 2022/11/21(月)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：現代美術の世界をわかりやすく解説。特にデザイン的に重要と考える作家と技法を紹介し、実践を試みる。

授業内容：美術史の流れの中で生まれた技法や手法を用いて、今までの自分とは異なる“変わった”作品を制作。座学とワークショップ形式の授業から現代美術を体感する。

実技科目：後期実技授業名：「ブランドプロデュース」 担当教員：田中北斗

授業期間：2022/10/04(火)– 2023/01/31(火)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：ブランド全体のデザイン、ディレクション力、プロデュースを経験し、企画～デザイン制作を総合的に行い幅広いスキルを身につける。

授業内容：架空の店舗（ブランド）の総合プロデュース。店舗業態の企画構想、各種デザイン及び プロモーション計画までを提案。

- ①世の中の店舗やブランドを検証
- ②ブランディングの構築
- ③各種グラフィックデザイン制作
- ④モックアップ（パッケージのダミーなど）制作
- ⑤企画書の制作、プレゼンテーションの実施

実技科目：後期実技授業名：「WEBコミュニケーション(先端メディア アート&デザイン)」 担当教員：秋山カズオ、中須賀美和子

授業期間：2022/10/05(水)– 2023/02/01(水)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：WEB メディアを利用したコミュニケーションやプロモーションの基礎知識を理解します。WEB 用語の習得やWEB デザインの内容、最新のトレンドなど生活の一部となったWEB を理解するとともに、伝わる表現や使いやすいWEB デザインの習得を目標とします。

授業内容：WEB を利用したコミュニケーションやプロモーションは今や欠かせないものになっています。最新のトレンドやルールを知識として学習するだけでなく、コミュニケーションやプロモーションの背景にある想いやメッセージを理解する力を育みます。最終的にはWEB サイトの制作を行い、実践的なスキルの習得を目指します。

実技科目：後期実技授業名：「広告デザイン」 担当教員：近藤 忠

授業期間：2022/10/18(火)– 2022/11/09(水)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：課題をとおり、広告表現の面白さと発想と技術を学ぶ。

授業内容：●課題①：コピーを考える（授業内完結）

●提課題②：ビジュアルにコピーを付ける（授業内完結）

●課題③：公共広告を制作する（ラフ提出→講評→完成物提出→プレゼン→講評）

実技科目：後期実技授業名：「デザインの仕事と現場」 担当教員：大久保裕文

授業期間：2022/10/20(木)– 2023/02/02(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：印刷媒体を中心としたグラフィックデザインのアイデアや実際の作業の説明。

授業内容：いままで経験したデザイン事例の解説。数回、編集者やカメラマンを呼んで、彼らとの仕事の関連事例を伝える。課題としては街の風景写真、フライヤー制作、アルファベットのタイポグラフィ制作など。

実技科目：後期実技授業名：「リ・デザイン」 担当教員：田中北斗

授業期間：2022/11/10(木)– 2022/12/03(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：世の中にある様々なパッケージデザインを考察し、リランディング 及び パッケージデザインのリニューアルに挑戦します。

リニューアルへむけた商品の企画（ターゲット再考、コンセプトの立案）、パッケージデザイン、構造の再検討など

既存の商品パッケージを題材に、幅広い知識やデザインスキル（グラフィック及びプロダクトデザイン）を学びます。

授業内容：授業前半で、課外授業を実施。印刷博物館で開催される「現代日本のパッケージ 2022 展」を訪れ、日本三大パッケージコンペティションでの入賞・受賞作品より、プロのアイデアやデザインを考察します。その後、各自、リニューアルの題材となる商品パッケージを決め、リニューアルコンセプト～デザインを制作。モックアップ（パッケージダミーの工作）と企画書を制作し提出します。

実技科目：後期実技授業名：「アートディレクション」 担当教員：大石恵美子

授業期間：2022/12/05(月)– 2023/01/14(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：アートディレクションの根幹である「ビジュアルでコミュニケーションをする」ための3つの基本的な力を養います。①柔軟な発想力 ②幅広い表現力（得意な技法を極め、不得意・未知の分野に挑戦する）③物量を克服する持久力と執着心

授業内容：1つのテーマから100種類のビジュアルを作ります。

実技科目：後期実技授業名：「ポスターデザイン」 担当教員：草谷隆文

授業期間：2023/01/16(月)– 2023/02/04(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：今まで学んだテーマから、タイポグラフィを主体としたポスター作り。B1の大型ポスターを作る事により、文字のディテールを追求、研究する。

授業内容：各自、漢字、カタカナ、ひらがな、アルファベットを1文字選び、文字の持つディテールを研究しつつ、ファインアートを取り込んだポスター作品を制作。指導者も同時に制作し、おのおのディスカッションをして進めていく。企画のたて方や進め方は授業の中で説明。

実技科目：後期実技授業名：「就活ポートフォリオ（就職支援カリキュラム）

／インターンシップ」担当教員：上野仁志、岡山拓史

授業期間：2023/02/06(月)– 2023/02/25(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：4 単位

学習目標：仕事に対する意識を高め、将来計画のきっかけ作りを目標とします。インターンシップではより専門的分野の実務能力を高めるとともに、学習意欲に対する刺激を得、高い就業意識を身につけます。ポートフォリオの授業では就職活動時に提出するポートフォリオの作り方を学びます。クリエイティブ業界の情報を学びながら、社会人になるための準備を始めます。

授業内容：自分のポートフォリオを制作し、プレゼンテーションを行ないます。また、就職についての講義を行ないます。

就業体験（インターンシップ）をし、実習レポートをまとめて提出。（希望選択制）

学校法人高澤学園
創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp